

令和4年度第1回幕別町創生総合戦略審議会議事録

1 開催日時

令和4年9月8日（木）18：30～20：15

2 開催場所

幕別町役場3階 会議室3-A・B・C

3 出席委員（15名）

坂本委員、橋坂委員、笹井委員、森委員、原田委員、佐々木委員、高道委員、
山本（美）委員、橋本委員、仙北谷委員、相内委員、齊藤委員、堀川委員、金野委員、
森田委員

※ 山本（真）委員、宮田委員、飯塚委員、藤井委員、堀委員は欠席

4 審議

- (1) 幕別町の人口動態について
- (2) 幕別町まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について
- (3) 開催時期について

5 事務局出席者

幕別町企画総務部長	山端 広和
企画総務部政策推進課長	白坂 博司
〃 政策推進課副主幹	太刀野 亜也乃
〃 政策推進課副主幹	鳴海 走也
〃 政策推進課副主幹	日下部 孝彦

6 傍聴者

1名

7 議事録

(企画総務部長)

定刻になりましたので、ただ今から、令和4年度第1回幕別町創生総合戦略審議会を開催いたします。

会議に先立ちまして、委員を選出いただいております団体の組織役員等の異動などにより、新たに委嘱いたしました3名の方をご紹介いたしますので、本日配布いたしました、資料3-1 幕別町創生総合戦略審議会委員名簿をご覧ください。

あわせて、その場で自己紹介をお願いしたいと思います。

はじめに、名簿の4番目、幕別町観光物産協会から副会長の森徹様です。次に、名簿の11番目、幕別町校長会から副会長の橋本靖宏様です。次に、名簿の14番目、十勝総合振興局から地方創生部長の相内宣人様です。

(各委員からの自己紹介)

(企画総務部長)

皆様ありがとうございました。

続きまして、事務局職員を紹介させていただきます。

(事務局職員からの自己紹介)

(企画総務部長)

なお、本日の出欠状況ですが、委員20名のうち、山本真委員、宮田委員、飯塚委員、藤井委員、堀委員の5名の方から欠席の連絡を受けておりますのでご報告いたします。

それでは、開催に当たり、笹井会長から挨拶を申し上げます。

(笹井会長)

皆様こんばんは会議に先立ちまして一言ご挨拶申し上げます。

本日はお忙しい中、令和4年度第1回幕別町創生総合戦略審議会にご出席いただき、ありがとうございます。前回開催したのは半年前の3月28日であり、その時の記憶をたどりながらの会議になろうかと思っております。

ここ最近でも、新型コロナウイルスの感染拡大が終息していない状況であり、本日も十勝で

は496人の新規陽性者が出たと聞いております。できるだけ短時間で、と言いたいところですが、重要な会議ですので、十分に感染対策を講じながら進めたいと考えております。

どうか皆様、積極的なご発言をいただきますようお願いいたしまして、開会に先立ってのご挨拶とさせていただきます。本日はよろしくをお願いいたします。

(企画総務部長)

それでは、ここから先の議事進行は笹井会長をお願いいたします。

(笹井会長)

それでは審議に入ります。議案(1)幕別町の人口動態について、事務局から説明をお願いいたします。

(政策推進課副主幹)

それでは(1)幕別町の人口動態についてご説明いたします。

資料1「令和3年度幕別町の人口動態の概要」をご覧ください。

「第2期幕別町まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、国の「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、人口の現状分析や将来人口推計等を基に、今後の目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示した「幕別町人口ビジョン」を踏まえ、将来にわたって活力ある社会を維持する「まち・ひと・しごと創生」の実現に向けて、第2期である令和2年からの5年間の施策目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめた計画です。

計画の進捗状況を検証するため、数値目標と重要業績評価指標、いわゆる「KPI」を設定しており、毎年、効果検証を行い、必要に応じて見直しすることとしておりますことから、本日は、委員の皆様、幕別町の人口動態をご説明し、令和3年度の計画の進捗状況についてご審議いただきたいと思います。

それでは、「幕別町の人口動態について」ご説明いたします。

まず、「1 直近10年間の年度末人口」の表をご覧くださいと、下から3行目が令和3年度の人口、下から2行目が3年度と2年度との差となっており、幕別地区は61人減で5,414人、札内地区は157人減で19,277人、忠類地区は51人減で1,422人、町全体では269人減で26,113人でした。

10年前の平成24年度との比較では、幕別地区は887人・約14%の減少、札内地区は395人約2%の減少、忠類地区は252人約15%の減少となっており、町全体では1,534人約6%の減少となつ

ています。

次に出生数と死亡数の差引きであります「自然増減」の計が、表のGの欄になります。令和3年度の出生数138人に対して、死亡数372人でありましたことから、234人の減となっています。

この10年間の平均をみますと出生者数164人、死亡者数は308人となっており、自然増減は年平均で144人が減少している状況となっております。

次に転入と転出の差引きであります「社会増減」の計が、表の右から4列目Jの欄になります。平成27年度以降、転出が転入を上回っており、令和2年度は転入が転出を35人上回っていましたが、3年度は再び39人少なくなっています。

次に「2 幕別町人口ビジョンから推計した2025年推計値との比較」の表をご覧ください。

こちらは、2020年（令和元年）の人口と人口ビジョンにおける2025年（令和6年）の推計値の差分を均等割し、毎年加算して算出した各年の推計の人口と、令和3年度末の人口を年齢別に比較したものであります。

令和3年度の推計人口26,391人に対して、26,113人と278人少なく、達成率は98.9%とやや推計値を下回っている状況であります。

0歳から14歳までの年少人口が達成率92.2%、15歳から64歳までの生産年齢人口が達成率94.8%と推計値よりも少ないものの、65歳以上の老年人口は、達成率109.6%と上回っております。

次に「3 高齢化率」の表をご覧ください。

令和3年度末時点の町全体の人口に対し、65歳の方の割合が33.6%、地区別では幕別市街地が45.2%と最も高くなっています。

なお、昨年度の町全体の高齢化率は33.1%であり、平成24年度から年々上昇傾向となっております。

次に「4 自然動態」の表をご覧ください。

令和3年度の出生数は138人、死亡数は372人でした。この出生数と15歳から49歳までの女性の人口により算出した合計特殊出生率が1.30であります。

人口ビジョンにおける令和6年度の目標値は1.55ですので、その目標値は達成できていない状況です。

次に「5 社会動態」についてご説明します。

「(1) 転入元・転出先の比較」の表をご覧ください。

転入元の表の転入者合計が876人でしたが、うち、表の右横の十勝管内市町村計を見ていただきますと518人、59.1%が十勝管内の市町村から転入しています。一方、転出先の表を見ていた

だきますと、転出者の合計が915人のうち、右横に記載の十勝管内市町村へ転出した方が473人51.7%であり、十勝管内の異動では転入が多い状況にあります。

また、十勝管外からの転入者が358人、転出者が442人と、こちらは転出者が上回っています。

次に「(2) 年齢別転入・転出者数の比較」をご覧ください。

年齢別の転入と転出の差引きでは、15～19歳が87人、20～24歳は54人社会減となっていますが、これは進学、就職を機に転出している方が多いことが推察されます。

その他の年代で概ね社会増になっており、これまで取り組んできました定住対策の効果や、帯広市に隣接している地域の特性が要因と考えられます。

資料に記載しておりませんが、移住定住対策として平成27年から実施しておりますマイホーム応援事業を利用し転入された方は令和3年度が93人、そのうち39歳以下の方は78人、うち、14歳以下の方は32人となっております。

「令和3年度幕別町の人口動態の概要について」の説明は以上です。

(笹井会長)

ただいまの説明につきまして、何かご質問等ございませんか。

(質疑なし)

(笹井会長)

それでは、議案(1)につきましては、これで終了とさせていただきます。

続きまして、議案(2)幕別町まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について、事務局から①と②の項目を併せて説明をお願いいたします。

(政策推進課副主幹)

資料2-1「幕別町まち・ひと・しごと創生総合戦略(令和3年度実績報告書)」をご覧ください。こちらは、令和3年度、総合戦略を推進するために行った事業の実績と効果検証、また、4年度に実施予定の事業等をまとめたものとなります。

「幕別町まち・ひと・しごと創生総合戦略」におきましては、4つの基本目標を掲げており、基本目標とその数値目標、そしてそれに対する令和3年度の進捗状況、また、基本目標を達成するための施策とその施策の目標数値(KPI)と進捗状況、そして各施策に対する取組の3年度の実績と4年度の予定を記載しております。

はじめに、2ページをご覧ください。

こちらの資料の見方を含めながらご説明させていただきます。

ここでは基本目標1「産業と振興と雇用の場をつくる」に対し、その下にあります数値目標「農業産出額の北海道に占める割合」と「納税義務者となる法人数」を設定しています。

「農業産出額の北海道に占める割合」で言いますと、平成30年度の数値を2.52%基準値とし目標年度の令和6年度に達成すべき目標数値を2.52%に設定しておりますが、3年度の実績が2.12%ですので、目標が達成できていないということになります。

基本目標を達成するための施策の一つがその下の施策1「農業の生産性の向上と経営の安定化」です。施策の目標（重要業績評価指標いわゆるKPI）をここでは認定新規農業者数ほか3つを設定し、右の欄には、具体的な推進方法及び取組内容を記載しております。

更に下の表には、各取組内容の、令和3年度の実績、検証・評価、今後の展開における改善点、4年度の取組を記載し、検証を行っております。

なお、施策の目標（KPI）は毎年、効果検証し、必要に応じて見直しを行うこととしております。

基本目標ごとの施策を簡単にご説明させていただきます。

2ページから6ページが基本目標1「産業の振興と雇用の場をつくる」になります。

数値目標に「農業算出額の北海道に占める割合」、「納税義務者となる法人数」を設定し、「施策1 農業の生産性の向上と経営の安定化」、「施策2 6次産業化と地産地消の推進」、「施策3 既存事業者及び進出企業等に対する支援」、「施策4 農業・自営業の後継者及び新規就業者の確保・育成」の4つの施策を進める取組を実施しています。

7ページから13ページは、基本目標2「十勝・幕別への人の流れをつくる」になります。

こちらは、「観光客入込数」、「社会増減数の均衡」を数値目標とし、「施策1 ブランド戦略やシティプロモーションの推進」、「施策2 スポーツ合宿・大会誘致の推進」、「施策3 都市部との関係人口の創出・拡大」、「施策4 移住・定住対策の推進」の4つの施策を進める取組を実施しております。

次に13ページから22ページは、基本目標3「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」になります。

こちらは、「15歳未満の年少人口」、「合計特殊出生率」を数値目標とし、「施策1 結婚の希望に応える支援」、「施策2 出産希望者に対する支援」、「施策3 子育て世代の負担軽減及び支援」、「施策4 魅力ある教育環境の整備」、「施策5 次世代の郷土を担う子供たちへの支援」の5つの施策を進める取組を実施しております。

次に23ページから31ページは、基本目標4「安全・安心で快適な暮らしができるまちをつくる」になります。

こちらは、「転出者数の抑制」を数値目標とし、「施策1 地域公共交通の維持・確保」、「施策2 自助・共助・公助の連携による防災体制の強化」、「施策3 生活支援の連携体制の強化」、「施策4 障がい者の自立支援」、「施策5 住民活動への参加の促進」、「施策6 公共施設等の適切な維持管理」、そして令和4年度に「施策7 地球温暖化対策の推進」を追加し、7つの施策を進める取組を実施しております。

次に、資料2-2「幕別町まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る数値目標及びKPIの進捗状況(令和3年度末)」をご覧ください。

こちらは、今ご説明した資料2-1の令和3年度実績の基本目標、施策目標の達成状況をまとめたものになります。表の見方になりますが、太字は、進捗率100%以上の施策目標、朱書きは、目標達成率50%未満の施策目標であります。

達成率50%未満の目標とKPIを中心に説明します。

一番上の表「基本目標1 産業の振興と雇用の場をつくる」をご覧ください。

表の横の番号1-03「認定新規就農者数(件)R2~R6累計」については、目標数値達成率が0%となっています。

この「認定新規就農者」ですが、18歳以上45歳未満の青年及び65歳未満で特定の知識や技能を有する中高年齢者で、農業を始めてから5年以内に「青年等就農計画」の認定を受けている等の要件があり、無利子融資等の国の支援を受けられるというものです。

新たに就農した方は令和2年度に6人、3年度に8人おりましたが、農家の跡継ぎ、いわゆる親元就農であり、この場合のほとんどは「認定新規就農者」に該当せず、「認定農業者」になるということです。後継者のいない農業者と新規参入とのマッチングを積極的に進めており、現在2人が畜産農家さんで事業承継に向けて受入されているとのことですので、達成に向けて取組を進めているところであります。

次に、1-05「自動操舵システム搭載トラクターの導入台数(台)」については、令和2年度の286台から447台と大幅に増加し達成率149%となっています。

こちらはトラクター導入にあたって国の補助があり、導入する農家が増えたことによるものです。

次に、1-07の「学校給食における地場産物利用割合(%)」については、達成はしているものの、令和2年度41.9%に対し、3年度は40.5%に減少しました。

要因といたしましては、令和2年度は国や北海道からの休業要請を受けた飲食店の休業によ

り、食材が市場で余剰となったため価格が下がり入手しやすかったのに対し、3年度は野菜が不作のため価格が高騰し、入手も難しかったとのことでした。

ただし、農協との連携により、目標の20トンの使用を達成しています。

次に、1-08の「誘致企業数（企業）R2～R6累計」については、達成率14%であり、その次の1-09「創業支援件数（件）R2～R6累計」については、累計7%という状況でした。

これらは、新型コロナウイルス流行により、企業活動が停滞していることが要因と考えられます。

令和3年度に工業団地内の用地拡大及び工業団地外への工業用地取得による補助が3件、新規の融資利息助成1件の実績があり、土地を購入されている事業者もありますことから、今後、達成に向けて事業が進むものと期待しております。

次に、1-10「新卒者町内就職者数（人）」については、令和2年度の115人に対して令和3年度が64人と半数近くになっておりますが、新型コロナウイルスの影響による企業活動の停滞が要因と考えられます。

町内事業者の雇用確保は重要と考えておりますことから、中学生や高校生の職場体験や、幕別清陵高校と連携したインターンシップなどの地元企業への就職促進にむけた取組を進めているところであります。

次に「基本目標2 十勝・幕別への人の流れをつくる」の表をご覧ください。

こちらは、朱書きの達成率50%未満の施策目標が多いのですが、2-01「観光客入込者数（万人）」、2-03「訪日外国人宿泊者数（人）」、2-04「スポーツ合宿・大会受入者数（人）」、2-05「スポーツ集客イベントへの参加者数（人）」、2-07「農村ホームステイ受入者数（人）」につきましては、移動制限、人数制限、イベント開催や受入の中止等、新型コロナウイルスの影響を大きく受けているものであります。

今年度は、感染防止対策をとりながらイベントの開催や合宿の受入等を行っており、今後の社会活動の活発化や国の施策等により、目標達成に向けて進むことを期待するところであります。

次に「基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる」の表をご覧ください。

3-03「婚活イベント参加者数（人）」については、目標80人に対し、令和3年度が実績13人で達成率16%でした。

こちらも新型コロナウイルスの影響により、交流会開催の中止やオンラインでの開催、少人数での開催となったことが未達成の要因です。

次に、3-06「町内保育所定員数（人）」については、今年の4月から、札内青葉保育所園が定

員増となったため、令和4年度に目標達成となります。

次に、3-07「不登校児童生徒の割合(%)」については、令和2年度の1.5%から3年度は2.6%に増加しておりますが、学校、家庭、社会状況が複雑に絡み、学校に通学できない状況がある中、新型コロナウイルスの影響によって長期の休みとなったことが主な要因と考えております。

スクールカウンセラーが週1回、学校を訪問し、カウンセラーを実施したり、スマイルパークにありますこども交流施設まっくぎまっくにおいて、3人のカウンセラーによる支援を実施したり、教師、保護者、カウンセラーの連携を図り、不登校の減少に向けて取り組んでおります。

次に「基本目標4 安全・安心で快適な暮らしができるまちをつくる」の表をご覧ください。

4-02「コミュニティバス利用者数(人)」については、令和2年度と比較して3年度は増加しましたが、利用状況としましては、幕別線は買物や通院等の日常生活に必要な用事による利用が回復したことや、幕別小学校通学者の利用により1日あたり31.7人で目標30.7人を上回ったものの、札内線は、特老温泉等の利用が戻らず1日あたり41.3人と目標51.8人を下回っているとのことで、新型コロナウイルスの影響が主な要因です。

次に、4-04「特定健康診査受診率(%)」については、こちらも、新型コロナウイルスの影響による出控え等が主な要因と考えられます。

コミバスの利用からも見て取れますが、生活の質を高める、健康増進といった、プラスαの活動が、まだ、回復していない状況が進捗からうかがえます。

次に、4-07の「まちづくり出前講座開催回数(回)」については、新型コロナウイルスの影響により、申込67回のうち、13回が中止になり、開催は54回となりました。令和4年度は現時点で申込が44回ありますので、増加を期待しております。

次に、4-08「幕別町公共施設等総合管理計画個別施設管理計画策定率(%)」については、昨年度と同じく、47.1%となっています。

「公共施設等総合管理計画個別施設管理計画」とは、持続的な公共サービスを提供するために町が所有する公共施設等の長寿命化を図ることを目的に、総合管理計画に基づき17に分類された、個別の施設ごとの具体的な対処方針を定めたものが個別計画です。

分類されたものの中には、建築物だけではなく、道路や上下水道等も分類の一つに位置づけられており、現在は8つの分類で計画を策定しております。令和4年3月に、総務省からの通知に基づき、総合管理計画を維持管理の計画やユニバーサルデザインなどの推進方針等の記載を追加し、一部改定しておりますが、その内容を踏まえ、今後、策定を進める形になります。

資料2-2「幕別町まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る数値目標及びKPIの進捗状況(令

和3年度末)」の説明は以上です。

次に、資料2-3「第2期幕別町まち・ひと・しごと創生総合戦略KPIの検証状況（令和3年度）」をご覧ください。こちらは、資料2-2で説明した37の施策目標の達成状況を達成率に応じてA～Dに区分し、進捗状況を検証したものです。

一つ目の達成状況の総括表をご覧ください。

「基本目標2」以外の3つの目標につきましては、達成率100%のA及び50%以上のBが各基本目標の80%以上を占めております。令和4年度は、「基本目標2 十勝・幕別への人の流れをつくる」につきましても、コロナ禍に対応しながらのイベント開催等も増えてきておりますことから、社会活動が活発化し、3年度を上回ることを期待しております。

説明は以上です。

（笹井会長）

資料の量が膨大ですので、少し分割してご質問等をお受けしたいと思います。

まず、資料2-1のうち、2ページ以降の基本目標1「産業と振興と雇用の場をつくる」につきまして、何かご質問等ございませんか。

（質疑なし）

（笹井会長）

それでは次に、7ページ以降の基本目標2「十勝・幕別への人の流れをつくる」につきまして、何かご質問等ございませんか。

（原田委員）

十勝・幕別への人の流れについて、幕別の観光という視点でご質問いたします。

まず、幕別の魅力はどこなのかというのが1点、また、町としてここを押しているという所があればお聞かせください。

昨年度の会議の場だったか定かではないですが、北海道外から来た方に幕別の特徴を聞かれると、必ず明野ヶ丘公園を紹介すると伺いました。明野ヶ丘公園の頂上からの展望は広く、きれいなため、あの辺りをもっと整備してはどうかと思いますが、どのような予算になっているのかが分からなかったため、観光のことで、町として考える魅力を教えていただきたいと思っております。

(政策推進課長)

ありがとうございます。

幕別町の魅力や観光スポットはどこか、という点についてですが、先ほど原田委員がおっしゃったように、明野ヶ丘公園は町外から来た方も頂上からの景色を見て、素晴らしい所ですねというお話をいただくことが多く、冬はスキー場もあるため、私どもも町外の方によくご紹介しております。

また、北海道らしい、十勝らしい景色という点では、十勝ヒルズ様も花や景色がきれいな所ですので、町としましても、素晴らしい観光スポットの一つですというお話はできるかと思えます。

町として一番はどこかというお話はしづらいですが、個人的な意見を述べさせていただきますと、忠類地区は幕別町の南の玄関口とも言われており、ナウマン公園やナウマン象記念館、ナウマン温泉アルコ236、道の駅、スキー場などの施設が近距離に集積されており、1年を通して、日帰りや宿泊を含めて様々なアクティビティを楽しめる場所であり、さらに高規格道路がつながったこと、空港にも近いことから、素晴らしい観光スポットとして押していけると考えております。

また、明野ヶ丘公園の整備についてもお話をいただきましたが、一昨年から、町として計画的に整備を進めていこうという考えを持っておりまして、まずは地元住民のご意見を伺うため、ワークショップを開催し、こんな公園になったら良いな、というようなご意見を出し合っているところで、その内容はホームページでもご紹介しております。

まずトイレなど基本的な施設の整備から進めていく考えではありますが、明野ヶ丘公園の整備は、このように住民を巻き込んだ中で取り組んでまいります。

(原田委員)

私は、どうしても明野ヶ丘公園とナウマン公園とを比較してしまうのですが、忠類はナウマン象に関する施設を核として広がっており、スキー場もあるという、同じような特徴が揃っている明野ヶ丘公園も、もう少し押していけないのかな、と考えてご質問いたしました。

(笹井会長)

ありがとうございました。

せっかくですので、観光物産協会の森委員からも、ご意見がございましたらお願いいたします

す。

(森委員)

昨年まで、忠類の飲食店で食事すると、スキー場の半額利用券がもらえたため、利用者数やスキー場の売上げが多かったと記憶しています。そうした、色々な取組をしていただいているほか、隣の大樹町が航空宇宙産業で大きく取り上げられているということもあり、南十勝の商工会としても、連携してプラスになるよう進めていこうと話しております。

(笹井会長)

ありがとうございました。

公募の委員からもご意見がございましたらお願いいたします。

(堀川委員)

観光物産協会の会長をさせていただいております、堀川です。

私どもとしては、町発祥のスポーツであるパークゴルフをもって、既に取り組んでいる「プラス8」プロジェクトをもう少し拡大し、楽しむ時間と、幕別町を味わう時間を合わせて滞在時間を伸ばしていただくという取組を続けていますが、徐々に成果が出ており、小中学校の修学旅行の受入など、力を入れて頑張っているところです。

(笹井会長)

ありがとうございました。

他に、基本目標2について、何かご質問等ございませんか。

(堀川委員)

コロナ禍ということで、令和3年度は行動制限がかかり、4年度も制限はかからないものの、外出しない人はしないという状況の中で、政策推進にご苦労されているという印象を受けておりますが、2～3点、質問させていただきます。

まず、10ページのスポーツ合宿・大会誘致の推進について、Actionとして「施設の長寿命化における施設整備計画を策定する」ということで令和4年度の実施内容が記載されているが、スポーツ種目の優先順位の付け方をどう考えているのか、また、維持管理の担い手が不足しているという話を聞いているため、その対策についてはどのように考えているのか、お聞かせく

ださい。

次に、11ページの幕別町応援大使事業について、今般、オリンピックでご活躍された高木菜那さんが引退されたということですが、令和3年度には福島さん、桑井さんのお名前も挙がっています。

皆様のご都合やご事情もあってのことですが、観光物産協会のグッズ作成を検討する上でも、応援大使の方々にご協力をいただけるよう図ってもらえないかと考えており、町の考えを伺いたいと思います。

次に、13ページの移住・定住対策の推進について、空き地・空き家バンクの成約件数が若干伸び悩んでいるというのがKPIの数値から読み取れますが、宅建登録事業者が2件増の20件ということで、仕組みを維持していく上で、どのように事業者とのコミュニケーションをとるのか、また、要望の聞き取りなどを密に行われているのか、という点をお聞かせください。

それらを含めて、人口動態の中で人口減少をなるべく食い止めるため、帯広市を含めた1市3町は、欲しい人がいるのに売り地がないという宅地不足、さらにニーズの高まりに伴う坪単価の上昇という問題があり、宅地造成を要望する声もあるため、それに対する町のお考えについても、可能な範囲でお聞きしたいと思います。

9ページに戻って、スポーツ合宿・大会誘致の推進について、私どもも様々な方のご協力を得て、子ども達に向けたeスポーツ大会を開催いたしました。10月のエゾカフェスでもeスポーツを開催されると聞いていますが、十勝において、まだまだ広がっていく可能性があると思いますので、幕別町としても計画の中に入れるという検討はできないのでしょうか。

(企画総務部長)

1点目、施設の長寿命化を考える際、どのように優先順位を付けるかについては、様々な公共施設の考え方と同じになりますが、建築年数、あるいは目視による劣化度調査、利用の頻度等を基本にしていると考えます。ただ、これは計画の内容を見た上での回答ではございませんので、学校など一般的な施設の考え方と同様と認識しております。

次に、維持管理の担い手確保については、各種団体からご協力をいただいているところではありますが、現状では維持ができないという声も聞こえてきた中で、人材確保が課題ということは十分認識しております。

少し話はそれますが、今後、部活動は地域が担っていくことになると言われており、様々な地域で人材確保が大きな課題となっています。例えば、スポーツクラブを利用した人材育成・確保が必要だと言われてはいますが、明確な答えは出ておらず、担当課でも課題だと考えており

ます。

また、応援大使の活用については、高木菜那さんや福島さんを含め、引退された後も町民のために地元での講演や子ども達への指導など、ご協力いただいているところですが、ご本人からは、今後も可能な限りまちづくりにお手伝いしていきたいと伺っておりますので、引き続き、まちづくりの中でご指導やご助言をいただければ、と考えています。

空き地・空き家バンクに関するご質問のうち、宅地造成については、帯広・幕別・音更・芽室が1市3町の帯広圏と言われるもので、これら市街地を構成する圏域の中で宅地造成が進められてきており、その中でどの程度の人口増が見込まれるか、という考えの下で宅地が広げられてきたという経緯があります。

ここ数年の人口減少問題と同時に、これ以上、人口の枠組み全体としては増加が見込まれないという状況の中で、宅地造成の計画は持っておらず、例えば個別の団地造成はないとは言いきれませんが、今後、新たに土地を求めて造成するという考えはありません。そういう意味では、定住対策として中古住宅の支援を行っております。

空き地・空き家バンクの中での業者との連携については、細かい具体的な状況は把握しておりませんが、町が特定の宅建登録事業者を申込者に紹介するのではなく、申込者に事業者を選んでいただいて交渉を進めていく、という流れだと聞いています。

eスポーツについては、計画に記載するとなるとまちづくりの一端に組み込むということになるので、この場で即答はできませんが、町として取組の必要性が生じた場合には盛り込んでいくべきもの、と考えております。

(堀川委員)

施設の維持管理については、時間的な余裕のない課題だと思います。オリンピックの町と標榜し、健康で生き生きとしたまちづくりを進めるためにも、重要課題として庁内で検討していただきたいし、また、民間と上手くコミュニケーションをとっていただきたいと思います。

部活動の話については、札内東学園の地域協働本部会議がありましたが、イメージばかりの説明を受けることが多いので、令和5年度や6年度から開始できるように、具体例を示しながら教えていただきたいと思います。

応援大使については、各方面から協力・支援要請を受けているので、お手数ですが、できる限りのご協力をお願いします。

宅地造成に関する町の考え方については理解していますが、民間デベロッパーの開発行為を含めた宅地造成については、ご相談に乗っていただける状況でしょうか。不動産業者の一人と

してご相談を受けることもあるので、札内だけではなく、幕別や忠類も含めて相談させていただけると助かります。

e スポーツについては、皆様のご協力を得て、小中学生や幕別清陵高校の生徒も参加していただき、幕別町を挙げて実施できたことは大きな実績であり、色々なスポーツに楽しく取り組んでいるというイメージアップにつなげられるよう、ご支援いただきたいと思います。それは文化系も同じで、幕別町には様々な可能性があることを常々アピールできるような幅の広さを持っていただき、そこから人のつながりができていけばいいと考えています。

数値目標まで示してくださいとは言いませんが、施策の広がりの中にも含めるような検討をお願いしたいのですが、いかがでしょうか。

(企画総務部長)

まず、部活動の話について具体例をとということについては、今ここで明確なお答えはできませんが、私としては課題と認識しております。地域で人材を探して、という話の中で、現状では地域の積極的な保護者の協力を得ながら取り組んでいます。全ての地域で同じようにするのは難しく、実際の現場と、協力いただける地域の方との調整が必要になってきますし、必要不可欠な人材もいるでしょうし、地域に潜在する協力者も含めて関係を構築していく必要があると考えております。

民間の宅地造成については、一律全て大丈夫ですという話ではなく、あり得るケースとしてはその程度しかない、ということをご理解いただき、具体的な場所を想定したケースについては、担当部局と調整してご相談いただきたいと思います。

e スポーツについては、現状、町としては後援という形で関わっておりますので、その効果は十分に認識しております。

(笹井会長)

ありがとうございました。

他に、基本目標2について、何かご質問等ございませんか。

(森委員)

国の基本方針である「地方へのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる」に対して、幕別町では「十勝・幕別へのひとの流れをつくる」となっており、内容を見ると幕別町に特化していると思うのですが、なぜ「十勝」と書いているのでしょうか。

また、国の方針にある「新しい」という言葉には何か意味があるのだと思うのですが、それは何なのかということと、幕別町にとっての「新しい」とは何なのか教えてください。

(政策推進課長)

「十勝」という言葉は、特段の決まりがあって入れているわけではなく、帯広市を中心に、ブランドとして知名度の高い言葉ですので、それも活用して対外的にPRしていこうという考えです。現在、ご当地ナンバーの導入も協議されており、この言葉を使いながら認知度の向上を図っているものと理解しております。

基本方針における「新しい」という言葉は、国から定義が公表されているわけではなく、今までは人の流れと言うと移住が中心になっていたと思いますが、人口が減少している中でパイの奪い合いになってしまいますので、移住までいかなくても関係人口・交流人口といった形で幕別町に興味を持って何らかのつながりを持っていただいたり、コロナ禍においてはワーケーションなどが広がったりしており、移住だけではない人の流れという意味でこの言葉を使っているものと捉えております。

(森委員)

ありがとうございます。

「十勝」という言葉については、ここに明記することには意味があると考えての質問でしたが、その回答としてご当地ナンバー等を出すのであれば、それに対応する施策がなくてはならないと思いますし、今のご回答を聞く限りは、その言葉を入れる必要はないように感じました。

また、「新しいひとの流れ」という点について、定住より交流人口・関係人口だという話は以前から言われていたことだと思うので、それを今言われても違和感があります。

もし「十勝・幕別への人の流れ」に新しさがなければいいですし、「十勝」という言葉にも意味がなければいいので、いただいた回答は的を射てないというか、腑に落ちないように思います。

(政策推進課長)

失礼いたしました。

ご当地ナンバーは一例として挙げさせていただきましたが、「ひとの流れをつくる」は単独の町だと取組がなかなか進まない部分もあるので、十勝全体での相乗効果と言いますか、近隣市町村と協力して人の流れをつくるため、「十勝」という言葉を入れさせていただいております。

色々な事業をこれからも実施していきますが、例えば南十勝の5町村で今年から3年間かけて移住に向けた取組を行う計画があります。これは、単独町村ではスケールメリットや予算確保が難しい面もあるため、近隣町村で協力して、相乗効果も含めて十勝として実施することで、人の流れがより大きくなるのではないかとということで「十勝」と入れております。

理解が難しいとおっしゃられるかもしれませんが、私どもといたしましては、このように考えているところであります。

(森委員)

ありがとうございます。

今おっしゃられたことは何ページ目に記載していますか。

(政策推進課長)

南十勝の話については、この計画には記載されておられません。事業としてはこれからの取組であり、進捗状況は担当課の方で把握していますので、今この場でお答えすることはできませんが、今年度から3か年、5町村で取り組んでいくということになっております。

(森委員)

これから3か年、南十勝で実施するという話は分かりましたが、ここにある資料は令和3年度実績報告書なので、既に反映されているべき事項かと思えます。

(政策推進課長)

3か年というのは令和4年度から実施するという意味であり、実際に事業としてはっきりした形ができてくれば、この計画にも盛り込みたいと思いますので、それが年度途中になるのか、来年度になるのかは、検討していきたいと考えております。

(森委員)

「十勝・幕別への人の流れをつくる」という基本方針があって、その令和3年度の実績報告書なので、私が質問したことに対して、令和4年度以降に実施する事業のことを答えられても、回答になっていないと思います。

(企画総務部長)

「十勝・幕別への人の流れ」については、例えば定住対策など、十勝定住自立圏19市町村で取り組んでいます。そこに地方創生も盛り込んだ形で計画を立てており、まさに地方創生の中で十勝として連携していこうという流れがございます。

そうした状況下で、令和3年度だけでなく、2年度から6年度までの5年間の目標を立てており、各年度で組み込まれる事業が変わってきますので、その中で組み込む事業については組み込んでいくと考えております。そのため、幕別町の計画ではありますが、取組として十勝全体で実施している、という主旨も含まれていることをご理解いただければ、と思います。

(笹井会長)

ありがとうございました。

他に、基本目標2について、何かご質問等ございませんか。

(高道委員)

スポーツ合宿・大会の受入とスポーツ集客イベントについて、資料2-2の大会誘致の右欄に「日本クラブユースU-15」の記載がありますが、これは3~4年開催していると記憶しています。この大会はこちらの会場でそう長く続かないのではないかと思いますし、また、慶應野球部の合宿も少しマンネリ化している感覚があるので、他の競技も含めて検討してはいかがでしょうか。

また、大会誘致について、札内スポーツセンターは大会という観点で見ると体育館施設として厳しいと思います。幕別町には幕別運動公園や札内の河川敷など有効利用できる施設があり、サッカー、野球の他にラグビーのポールもありますので、幕別の体育連盟や少年団の関係者を交えて、大会誘致やスポーツイベントに関する委員会を立ち上げて検討してはどうかと思いますが、どのようなお考えをお持ちでしょうか。

(企画総務部長)

まず、「日本クラブユースU-15」について、確かに当初は年数が定められていたと記憶しておりますが、今のところ来年はこちらを会場として開催する予定であります。今年も1,100人ほど来場したということで、かなりの集客があったと認識しております。

合宿誘致については、今も実行委員会形式で取り組んでおり、誘致のあり方について検討しているところですので、その中で議論されていくものと考えております。

体育連盟や少年団も含めた組織の立ち上げや意見の聞き取りについては、教育委員会の担当

課で大会誘致の事務局を担っており、意見を伺う場を要望している旨、担当に伝えておきたい
と思います。

(笹井会長)

それでは次に、14ページ以降の基本目標3「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」につ
きまして、何かご質問等ございませんか。

(金野委員)

人口減少に歯止めがかからない状況の中、町として様々な施策に取り組んでいるようです。

そのうち、14ページの施策1「結婚の希望に応える支援」の中で、「企業・団体間のネットワ
ーク構築による出会い・交流の場を確保し、未婚化や晩婚化の改善を図る」とありますが、例
えば帯広信用金庫が実施している婚活事業との連携を締結している管内町村は、音更・芽室・
鹿追・新得・中札内と聞いています。

幕別町では、この婚活事業に取り組まれていますか。

(政策推進課長)

婚活事業については、14ページに記載しているクラブアップル事業や小規模交流会農コンな
ど、主に農業振興公社で行っている、農業者の後継者対策という形で取り組んでおります。

先ほど金野委員がおっしゃられた帯広信用金庫様の事業については、いくつかの町村が協定
を結んで取り組んでいることを存じておりますが、その内容は、どちらかと言えば民間と行政
が一体となって婚活事業を推進するというよりは、信金様の事業を町の方でPRし、また、住
民へ周知するものと聞いております。

今後、事業の実績も含めて、本町でも連携できるかどうか、研究していきたいと思いますが、
ある町では農業者の後継者支援という形で活用していると聞いていますので、今のお話を本町
における担当課である農業振興公社にも伝え、取組方針を検討していきたいと思
います。

(金野委員)

「未婚化や晩婚化の改善を図る」とありますので、この目標を達成するため、今後は積極
的に関わっていくのがいいと思います。

(笹井会長)

ありがとうございました。

それでは次に、23ページ以降の基本目標4「安全・安心で快適な暮らしができるまちをつくる」につきまして、何かご質問等ございませんか。

(質疑なし)

(笹井会長)

次に、「②幕別町まち・ひと・しごと総合戦略KPIの検証状況」につきまして、何かご質問等ございませんか。

(質疑なし)

(笹井会長)

それでは、議案(2)につきましては、これで終了とさせていただきます。

続きまして、議案(3)開催時期について、事務局から説明をお願いいたします。

(政策推進課副主幹)

これまで、本審議会につきましては、3月に2月末の人口動態と事業概要、7月に人口動態と事業検証の審議を行なってまいりましたが、今後につきましては、次第に記載のとおり、5月に人口の年度確定値を基にした人口動態と事業概要を、10月に決算認定された後、前年度の事業検証を審議することで、開催月を変更したいと考えておりますことから、開催時期につきまして、お諮りいたします。

ご審議のほど、よろしく願いいたします。

(笹井会長)

と言うことは、次回の開催時期はいつになりますか。

(政策推進課副主幹)

本年度は今回の1回のみとなりまして、次回は来年度の5月となります。

(笹井会長)

ほぼ1年先になるということですね。

ただいまの説明につきまして、何かご質問等ございませんか。

(質疑なし)

(笹井会長)

それでは、議案(3)につきましては、これで終了とさせていただきます。

以上で、本日の議題は全て終了いたしました。全体を通して、委員の皆様から何かございますか。

(仙北谷委員)

資料2-1に記載しているように、PDCAを回すという考え方は良いと思いますが、その中の「A」は、最初に立てた「P」が正しかったのかどうかを検証し、もしそれが間違っていたのであれば「P」を修正するものだと考えます。

資料中の「A」は、「D」と「C」の進め方について記載しているようですが、本来は「P」をこのまま進めていいのか、検討するのが「A」だと思います。

具体的に言うと、基本目標1「産業の振興と雇用の場をつくる」を実現するために、いくつかの施策を「P」として立てていますが、その計画を進めていけば基本目標を達成できるかどうか検証するのが「A」であり、それぞれの施策が最終目標である幕別町の人口増につながるのか、ということを念頭において「P」の見直しを検討しなければならないと思います。

果たしてそういう報告書になっているのか、改めて考えてもらいたいと思います。

また、開催時期の見直し案が出されましたが、令和3年度に実行したことを4年度に見直し、5年度に反映させましょうというものであり、PDCAのサイクルが長くなるため、最終年度でできればいいのか、小刻みに対策を打つことが必要なのか、スピード感を持ってとよく言われるので、この戦略がしっかりと進められているのか不安な印象を受けました。

以上は感想なので、何かお答えしていただかなくても結構ですが、そういう印象を持ちました。

(政策推進課長)

このプランを実行すれば基本目標・数値目標を達成できる、というような計画を作りましょう、といったご意見をいただいた中でこの戦略を策定していると前任者から聞いております。

サイクルの中で「A」の視点が違うのではないかというご指摘については、来年度からすぐにこの資料へ反映させられるかどうかは明言できませんが、いただいたご意見を十分に検討したいと思います。

スケジュールの大きな見直しに関する視点としては、これまでの3月開催では人口動態を2月末の数字でしかお示しできず、次の会議で年度の数字を用いて同じような話をする事になっていたので、5月開催として年度の確定値をお示するというのが主旨となっております。それをもって、10月に前年度の進捗を検証することになるので、例えば令和5年度に4年度の検証をして6年度に反映となるため、おっしゃる通りかと思います。

スピード感ということを含めて、どの時期にどう反映させて展開していくかという話については、私どもも勉強・研究が必要であるため、この場でお答えはできませんが、同じように総合戦略を策定している近隣市町村がどのように進めているのか検証し、反映させられる部分はすぐに対応していきたいと思います。

(笹井会長)

他に何かご質問等ございませんか。

(相内委員)

新たに委員を委嘱していただいたので、ご意見というか、感想を述べます。

我々、北海道としましても、こういった計画を策定して検証という作業をしておりますが、KPIが100%になったから良い、足りないから悪い、というような機械的な評価だけではなく、100%だから本当に良いのか、50%だから本当に悪いのか、という検証はしていく必要があると思います。

また、町の方で有意義な施策を行っておられるので、住民等にしっかりPRしていかないといけないし、我々としても後押ししないといけないと考えています。

KPIがある中で、課題があつてなかなか目標を達成できない、というような状況があれば、振興局はそれをお手伝いするのが仕事だと思っておりますので、今後ともご相談ください。

(笹井会長)

ありがとうございました。

他に意見はございませんでしょうか。

無いようですので、最後に事務局から連絡事項があればお願いします。

(連絡事項なし)

(笹井会長)

それでは、本日の審議会は終了いたします。

長時間にわたりご苦勞様でした。